

大会報告



第15回品質工学技術戦略研究発表大会実施報告

RQES2022A 実行委員会

2022年11月18日（金）に、第15回品質工学技術戦略研究発表大会が「ITとの結合で進化する品質工学—新しい品質工学を考える—」の大会テーマの下で開催された。過去2年間は全面リモート開催であったが、本年は星陵會館ホールを会場とし同時にライブ配信でのハイブリッド開催（後日期間限定オンデマンド配信）となった。参加者は会場とオンラインを合わせて116名であった。品質工学会会長 椿広計の開会挨拶のあと、招待講演2件、研究発表3件、パネルディスカッションが行われた。

開会のことば

（一社）品質工学会会長 椿 広計

ご承知のように、COVID-19のためこれまで学会は対面の行事ができなくなっておりました。本日は会長になって対面の行事に出席するのは初めてとなります。それだけ日本も世界も非常に苦しい時代を迎えていたと考えるところです。今回3年ぶりに星陵會館からハイブリッド開催という形で全国の方々に見ていただいているとともに、会場の皆様方に直接語りかけるというような機会が本当にこの数年間なかったので大変感慨深いものがあります。感染に注意して会場の方々にはリアルなコミュニケーション、活発な討論を行っていただければと願うばかりです。学会自体はネット上での開催ということが主体になってきて、それ自身は全国の方々が容易に参加できるということでもよかったのだと思いますが、議論を深めていく対面のコミュニケーションによって気づくことも大変多くあると思います。品質工学会自体はハイブリッド開催は初めてなので、ロバスタな運営ができればと思っているところです。

今回、招待講演をいただくマツダの安達様、それから、研究発表をいただくマツダの久保様、日産自動車の西野様、YKKの畠山様、それから私どもの統計数理研究所の吉田様、皆さんがご多忙の中で講演に参加していただけることに心から感謝申し上げます。それから、実行委員会の浜田副会長をはじめ、多くの方々に支えられてこの大会ができるようになったことに改めて感謝申し上げます。

私は田口玄一先生の技術哲学というものをいかに経営に活かしていくか、新たなものづくりに活かしていくか、品質工学を進化させ新しくしていくかということに大きく寄与するチャンスになるコミュニケーションだと思います。もう一つは私どもの研究所から吉田ものづくりデータ科学研究センター長に参画いただきましたが、現在いわゆるデータサイエンスというものがいわれていて、機械学習に支援されたもの作りということが非常に多いのですが、田口玄一先生の技術哲学とある程度同じ方向を向くのではないかという期待も多く持っております。この二つの分野がコミュニケーションしたことはないと思いますが、品質工学がいろいろな分野とつながって、さらに社会課題の解決、社会損失の低減や社会の自由度を確保することに寄与できればと思います。本日一日となりますけれども、貴重な場ですので、お互いの熱い討論を期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。

【招待講演1】

お客様の輝きにつなげるマツダのモノづくり
～魂動デザイン実現に向けたプレス金型製作プロセス革新～

マツダ(株) 安達範久